

## 【小施策評価(平成29年度実績評価)】

### 小施策の総合計画における位置付け

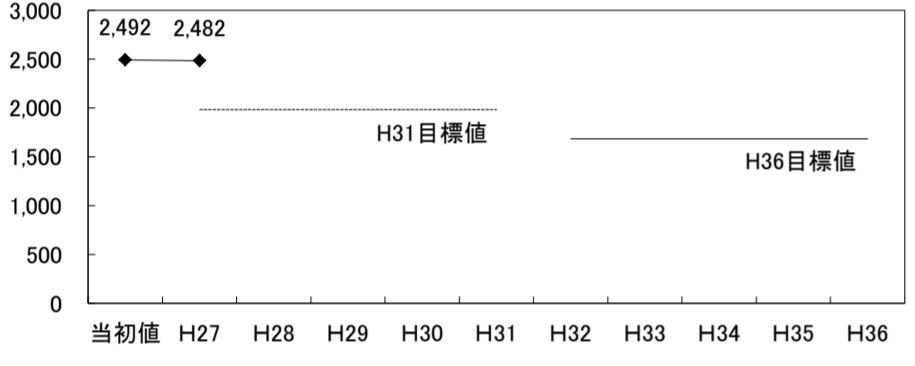
基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	千葉 信幸	内線 8410
小施策	20-4	地球温暖化対策の推進	評価 シート 作成者	菅原 真理	内線 8411

### 小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市域における温室効果ガス排出量は、17年度をピークに減少傾向にあったが、東日本大震災後の23年度は増加傾向に転じた。地球温暖化対策実行計画の目標年度である32年度における温室効果ガス排出量の7%削減(平成2年度比)に向け、地域経済の好循環にもつながる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。		温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
市民・事業者		温室効果ガス排出量を抑制する。

### 小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 温室効果ガスの総排出量	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析
当初値 (H25) 2,492	千t-co2	↓	・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、185件の太陽光発電システム等が設置された。 ・「盛岡市木質バイオマス利用推進アクションプラン」を策定した。	⇒	・太陽光発電システムのほか、蓄電池システム、ホームエネルギーマネジメントシステムを補助対象機器とした。
H31目標値 1,984			問 題 点	⇒	問 題 の 要 因 分 析
H36目標値 1,685			・補助事業の財源である「地球温暖化対策実行計画推進基金」の残高が減少しており、事業の継続が難しくなりつつある。	⇒	・支出(事業費)に比べ、収入(積立額)が少ない。



※ 実績値は、3年程度遅れて把握される。

### 今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<p>★ 木質バイオマス利用の促進に向けた具体的な事業を検討する。</p> <p>☆1 基金の残高減少を抑制し、有効に活用するため、収入となる「ふるさと納税」の用途に選ばれるよう、太陽光発電システム等設置費補助金事業を含む基金活用事業全体の見直しを行う。</p>	